

日本精神保健社会学会

発行 2021 年 12 月 20 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No. 1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第 74 号

TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：宗像恒次 編集委員長：山本美奈子

E-mail: murakami@t-mental.co.jp

会員の皆様、今年も残すところあと少しとなりました。今回のニュースレターは、第27回の学術大会のご報告と理事の現場からをお届けします。第27回の学術大会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大予防から、昨年に引き続き、オンラインにて開催しました。

第 27 回 日本精神保健社会学会学術大会を終えて

○第 27 回 学術大会実行委員長 山口 豊

（東京情報大学総合情報学部 教授）



冬至も過ぎて、日は少しずつ伸びてきましたが、寒さはこれからが本番です。体調管理がますます必要になってきます。学会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。2021 年度の学術大会も第 27 回目を迎え、11 月 23 日インターネット上 Zoom 内会議室において、盛況のうちに大会が開かれました。オンライン大会は昨年に引き続き 2 度目となり、やや慣れてきた感じもあります。今大会テーマは、

「コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題—個人の課題と社会の課題」ということで、社会的視点と個人的視点が融合された本学会特有のテーマと考えています。小さな学会ながら、現代社会に必要なテーマを提言できたと考えています。

大会は、総合司会の谷口清弥氏の下、僭越ながら大会実行委員長を命ぜられた私の開会の言葉で始まらせていただきました。コロナ過における医療従事者の大変さはひしひしと伝わってくる一方で、コロナ過における自粛生活の孤独さが心配になります。それを裏付けるように若者の自殺者数増加も気になります。このような個人レベルのメンタルヘルス

の問題は、個人レベルでの対処だけでは限界があります。ソーシャル・ディスタンスやロックダウン、感染症法におけるコロナの位置づけ、PCR 検査精度の問題、ワクチン安全性の問題などから生じる社会政治的な課題でもあると考えるわけです。そのような意味において、常に個人レベルの問題は、社会政策的課題の検討も必要になるのでしょう。

午前中の研究発表について、畠中理事と服部理事が司会を担当され、口頭発表 3 本と紙面発表 5 本が行われました。口頭発表では、鈴木裕子氏「レジリエンスを高める大学地域カフェ活動の実践」、河原忍氏ら「自閉症スペクトラム障害に対するあん摩療法の効果」、山口豊氏ら「TEG II を用いた心理系授業前後の心理的变化に関する研究」、紙面発表では、学生へのキャリアカウンセリング、英語学習への心理教育指導、健康施策におけるエンパワメント、アーチェリー技術向上、セルフマネジメントプログラム効果などが行われ、どれも興味深い発表ばかりでした。

午後になって、総会が武藤副会長の議長の下行われ、無事に議事が進みました。その後、今年のテーマである「コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題—個人の課題と社会の課題」をテーマに、宗像会長が基調講演として、ストレス自体をなくすことはできないが、ストレスを乗り越えるレジリエンス力を高めることはできるという SAT 療法を通じたお話を頂きました。引き続き、シンポジウムでは、ファシリテータである山本美奈子氏の下で、都立松沢病院精神科医の福田陽明先生が「新型コロナウイルス感染症の診察」ということで、従来になかったコロナ感染症者への精神科治療の難しさをお話していただきました。訪問看護師の藤田愛先生からは、「神戸市における新型コロナウイルス感染症の訪問看護の経験から」ということで、自らの感染に不安を抱きながらも、訪問看護を続けていく未知の世界への取り組みが語られました。

後半は、殿山理事によるツボ押しリフレッシュ体験からスタートし、基調講演・シンポジウムを併せたディスカッションが行われ、参加者の方からも活発な質問、意見、感想が寄せられ、大会テーマを深めることができました。最後に、中嶋理事による閉会の言葉で今大会も無事に終了することができました。オンライン対応は新行内理事が担当してくれました。

今年も大会が無事に終了し、理事をはじめ学会員や多くの方々に支えられて大会ができました。関係の皆様、心から感謝申し上げます。来年の大会も、さらに発展して開かれることを祈念いたします。

日本精神保健社会学会の学会発表を終えて

○河原 忍

(長崎大学大学院医歯薬総合研究科、福岡県立福岡高等視覚特別支援学校)

私は現在、視覚特別支援学校で鍼灸あん摩マッサージ指圧を教えている。生徒の中には視覚障害と発達障害を併せ持つ者もいる。自分の専門を生かして発達障害のある生徒たちの役に立ちたいと思い、筑波技術大学大学院修士課程に入学、『自閉症スペクトラム障害に対するあん摩療法の効果』をテーマに研究に取り組んだ。

今回は『唾液オキシトシン濃度と「不器用さ」に着目して』をサブテーマとして口頭発表させていただいた。クロスオーバーデザインにより、週に一回8週間マッサージを受けた群と受けなかった群を比較したところ、唾液中のオキシトシン分泌量の統計学的な有意差は見られなかったが、自閉症スペクトラム障害に並存することが多い「不器用さ」について有意差が見られた。

従来からあん摩療法は筋を他動的に運動させ、血液やリンパの流れを促進し筋緊張を緩和させること、関節内の代謝を盛んにし、滑液の分泌を高めて関節の動きをよくすることが知られている。また、刺激が脳皮質に入力されることから、身体的愁訴だけでなく、心理的・精神的愁訴にも関与することが考えられる。

昨年春、長崎大学大学院博士課程に入学した。今後も研究を発展させ、発達障害児・者への支援を続けていきたい。

理事の現場から—コロナ禍に考える鍼灸手技療法—

○殿山 希

(筑波技術大学鍼灸学専攻)

私の職場は大学の保健学科鍼灸学専攻です。学生は4年間の教育の後、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の国家試験を受けて医療人となります。鍼も灸もあん摩マッサージ指圧（以下、手技療法）も人と対面し、話を聞き、手で触れて身体の状態を確認し、手や鍼や灸を使って身体の不調を整える仕事です。しかし、コロナ禍では、ソーシャルディスタンスが求められ、他学科の教員から「鍼灸手技療法は古い。もう、人と対面しないのでできる治療を考える時代が来た。」と言われた時にはたいへん驚きました。

コロナ禍において、対面が必要な実習授業をどのようにして安全に行うかということは確かに大きな問題でした。基礎実習では、授業前に検温と体調チェックの実施、フェイスシールドの着用は通常時とは異なりますが、CDC ガイドライン「CDC (Centers for Disease Control and Prevention : 米国疾病管理予防センター) のガイドライン」の手術時に相当する手洗い教育は日常的になされていたことから徹底した手洗いと手指消毒はいつもと変わらぬ実習時の姿です。大学附属医療センターでの実習は、患者様もいることから同時にひとつのブースに入る学生数を例年より減らして三密を避け、風通しをよくし、あとは例年通り、学生は患者様に問診し、身体に触れて触察し、教員の施術部位を目や手で確認します。患者様一人終るたびに窓やドア、カーテンを広く開け、ベッドやワゴン、椅子もアルコール消毒し、使い捨てシーツを付け替えます。これは学生の実習での任務のひとつに加わりました。

昨年 5 月、茨城県の非常事態宣言の下、医療センターの鍼灸手技療法部門は 1 ヶ月間閉まりました。しかし、施術が再開した時には多くの患者様が戻って来て「早く治療を受けたかった」「体がつらかった」などとおっしゃいました。マッサージ治療に通う抗がん剤治療後の下肢の痛み悩む患者様にはセルフマッサージを教えていたのですが、「やっぱり先生にしてもらわないとよくならない」とのことで治療の力を実感しました。専門的知識・技術を持つ治療者が人の身体に触れ、快適な力加減で触・圧刺激を与える療法です。身体の症状が緩和するとともに、安心と休息が与えられ、気持ちが前向きになり、術者・被術者互いに交わした言葉から元気を与え合い、励まされることを実感します。「やはり対面がいちばんですよね」と尋ねてみると「当たり前じゃないの」と大きな声で笑われました。治療者側の心もとても支えられました。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。2020年度の年会費は、2020年10月1日から2021年9月30日の期間です。また、2021年度の年会費は、2021年10月1日から2022年9月30日の期間です。2020年度、2021年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いいたします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 28」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：2022年7月15日（金）厳守

●投稿規定：詳細は、本学会ホームページ

日本精神保健社会学会 (jamhs.org)

投稿規定をご確認ください。

●送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。

〒171-0021

東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上宛

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、ご入会くださるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金: 5,000 円

年会費: 通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先: 郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
自宅住所	〒 TEL: FAX: E-mail:		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			